すべきではないかと思います。

もう一つは、谷井田地区の商店街ですが、我々が若い頃はもう少し元気があったんです。我々住民と同じように高齢化し、商店街もさびれてきたという印象が一般的にあります。したがって、産業経済の観点から、高齢化している住民にターゲットをあてたまちづくり、商店街づくりというのは、新たな視点として必要だろうと考えます。

男性　私の地区も防災無線が聞こえない地域で、よほど追い風がないと聞こえてこない状況です。最近は、J-アラートを活用して防災無線で緊急地震速報なども流れるようになっているかと思いますが、そういう意味も含めて、各家庭に音声が届くことは非常に大事な事と思っています。自治体によっては、防災無線を各家庭で受信できる受信機を設置しています。これは、個別に購入したり、貸与される形で行っている自治体があるというふうに把握しております。つくばみらい市としても、各家庭で確実に防災情報が聞き取れるよう、防災無線の個別受信機の貸与が考えられないかどうか、ご検討いただければと思います。

女性　家の外での子どもたちの居場所や遊び場がないんじゃないかと思います。公園もあり、外で遊ぶのも結構ですが、高学年になると、そういうものだけでは物足りなくなります。屋内で友達と話したりするスペースが欲しいです。コミュニティセンターでは、団体で予約をして部屋を確保しないと使えない、子どもたちがあまり騒ぐと叱られる、子どもたちが自由に出入りしにくい場所です。公的な場所で騒ぐのはあまりよくなく、配慮ができる子どもになって欲しいと思いますが、もう少し子どもが自由に使えるようなスペースが欲しいです。例えば、遊具を貸し出してくれたり、時間制限を設けてフリーに使えるスペースなど、そういったシステムも考えていただけないかと思います。

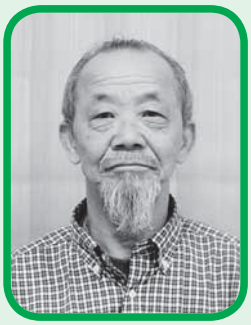
市長　忌憚（きたん）のない意見をいただきましてありがとうございます。今後も『市長と〝みらい〟を語る集い』を行ってまいります。皆さんの新しい考え方をしっかり受け止めて、市政の運営に職員と一丸となって取り組んでまいります。今日のようなご意見をこれからもお寄せいただければ幸いです。

interview
インタビュー

今回参加された皆さんに、懇談会に参加した感想や、今後の懇談会の取り組みについてご意見をいただきました。

中山務（なかやまつとむ）さん

初めての市長との懇談ということで、多くの住民の方が日頃思っていたことを率直に話せたのではないかと思っています。しかし、十分に言えないということもありますので、今後も、このような懇談会を開催していただきたいと熱望しています。



大下誠治（おおしもせいじ）さん

率直に言えば、このような会が催されることはすばらしいことだと思います。行政が、住民の意見に耳を傾けながら、いろいろなことをキャッチボールしようとされているのかなと思いました。この会をもっともっと発展させるためには、どちらかが一方的に話をするのではなく、もっとフランクに話し合えるような議論の仕方があるのではないかなと思います。

原口明美（はらぐちあけみ）さん

子育て世代の意見が出てこなかったのが残念な感想でした。意思のある方が参加されているので、年代とかを調整するのは良くないかもしれないですけど、「みらいを語る」という点では、20代30代といった世代の人たちが多く参加できるようにした方がいいと思いました。

―次号は7月25日（水）配布開始―